

座間味村の阿嘉島沖

【座間味】座間味村慶留間島の道路拡張工事で、埋め立てられる海岸のサンゴを守るべく、十四日から三日間の日程でサンゴの移植作業が始まった。座間味村漁業組合(金城忠彦組合長)が中心となり、ボランティアで村内のダイビング事業者約三十社と阿嘉島臨海研究所が協力。村では初の試みとなった。

サンゴを移植

移植には地元のダイバー二十五人が参加し、慶留間島の北側の海岸から、約二十秒前後に成長したテーブルサンゴやエタサンゴなど二百以上を切り取り、阿嘉島沖のニシハマと呼ばれるダイビングポイントに水中ポンドなどを使って移植した。阿嘉島・慶留間ダイビング協会の大村真澄さんは初めてにしてはうまくいった。経過を観察し、データを集めていきたいと語った。



水中ポンドを岩肌にはり付け、丹念にサンゴを移植するダイバーたち＝座間味村阿嘉島・北浜沖合150m(水深約6m)